

字

〔伊呂波字類抄安事〕字アサナ

〔書言字考節用集人倫〕字アサナ

〔倭訓栞前編二〕あざな 字をよめり、交名の義なり、人に交るより呼べる名なればなり、字を阿三那ト譯せしは、中山傳信錄に見え、梵語に惡刹那といふ事、俱舍論に見ゆ、是は文字の字なり、學生入學の時、文章院の堂監が書くだす名籍にあざなを書り、よて儒者たるもの、必ずあざなつくといふ事、源氏の抄に見えたる、後世の俗謔名をも亥かいへり、宇治拾遺にも見えたる、よてあだなの義なりともいへり、

〔禮記註疏七〕幼名冠字○中疏正義曰、冠字者、人年二十、有^{アマ}爲人父之道、朋友等類、不可復呼其名、故冠而加字、

〔玉勝間〕あざ名といふ物の事

あざ名といふもの、かの文琳管三、平仲などのかたぐひのみにもあらず、古より正しき名の外によぶ名を字といへること多し、中むかしには今いはゆる俗名をも字といへることあり、其外にも田地の字、何の字、くれの字などいふも、皆正しく定まれる名としもなくて、よびならへるをいへり、いづれも漢國人の字とはことく也、そが中に今の俗名をいへるは、漢人の字とこころばへ似たり、

〔好古日錄〕末字

金石錄曰、唐薛收碑、文字殘缺、其可讀處々以唐史校之、無甚異同、唯收之卒、謚曰懿、而史不書爾、又收之子元超、據唐史及此碑皆云名振、字元超、蓋唐初人、多以字爲名爾、國朝管三文琳紀寬ノ類、名トイハズシテ字ト云、唐初ノ人人、字ヲ以テ名トスルニ倣テ、名ヲ字ト云ナラム、

〔目知錄二十三〕自稱字

漢書註、張晏曰、匡衡、少時字鼎、世所傳與貢禹書、書上言衡敬報下言匡鼎自、南史陶弘景、自號華陽